

TOTO

ロータンク用金具

商品の機能が十分に発揮されるように、この施工説明書の内容に沿って正しく取り付けてください。取り付け後は、お客様にご使用方法を十分にご説明ください。

1 安全上の注意 (安全のために必ずお守りください)

取り付け前に、この「安全上の注意」をよくお読みのうえ、正しく取り付けてください。

- この説明書では商品を安全に正しく取り付けいただき、お客様や他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。
- お守りいただく内容の種類を、次の絵表示で区分し、説明しています。

表示	意味
	この表示の欄の内容を無視して誤った取り扱いをすると、傷害または物的損害が発生する可能性があります。

	は、してはけない「禁止」内容です。左図は、「分解禁止」を示します。
	は、必ず実行していただく「強制」内容です。左図は、「必ず実行」を示します。

注意	
	強い力や衝撃を与えない 陶器が破損してけがをしたり、水漏れのため家財などをぬらす財産損害発生のおそれがあります。
	修理技術者以外の方は、金具本体内部を分解しない 故障や水漏れの原因になります。
	必ず実行 設置工事に使用する部品は必ず付属部品および指定部品を使用する 故障や水漏れの原因になります。

2 仕様

給水圧力	最低必要水圧	0.05MPa(流動圧)
	最高水圧	0.75MPa(静水圧)
使用最高温度		40℃以下
使用可能水質		水道水および飲用可能な井戸水
使用環境温度	一般地用	1~40℃
	寒冷地用	-20~40℃ (ただし、0℃以下は水を抜いた状態)
用途		一般住宅トイレ用

3 取り付け前に

- 給水圧力が0.75MPaを超える場合は、市販の減圧弁で0.2MPa程度に減圧してください。
快適にお使いいただくためには、0.2MPa程度の圧力をおすすめします。

4-1 施工手順

※品番によっては図と現品の形状が一部異なります。

1 給水管内の掃除 **重要**

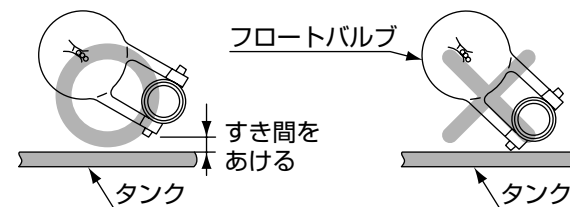
取り付ける前に必ず給水管内のごみ、砂などを完全に洗い流す。

2 取付ボルトの取り付け

背の低い方のナットを使用して強固に締め付けてください。

3 排水弁の取り付け

フロートバルブの着脱ができるようにすき間を確保してください。ボールタップと排水弁の取り合いは裏面を参照してください。

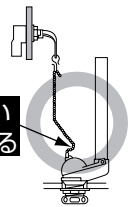


必ず実行

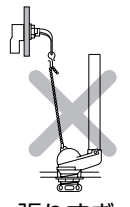
防露層取付部の形状に合わせて取り付けてください。ずれていると取付不良により水漏れのおそれがあります。
タンク防露層下面部は切り取らないでください。
左給水と右給水の場合とは取付方向が違います。オーバーフロー管が、ボールタップと反対側になるように取り付けてください。

4 鎖の調節

4玉ぐらい
たるませる



たるみすぎ

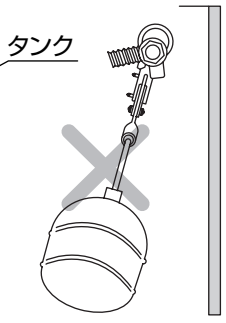
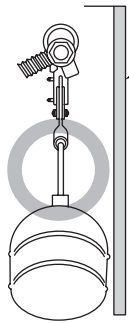
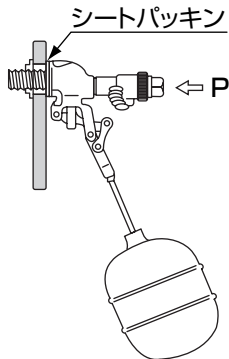


張りすぎ

5 ボールタップの取り付け (流動金具付きのみ)

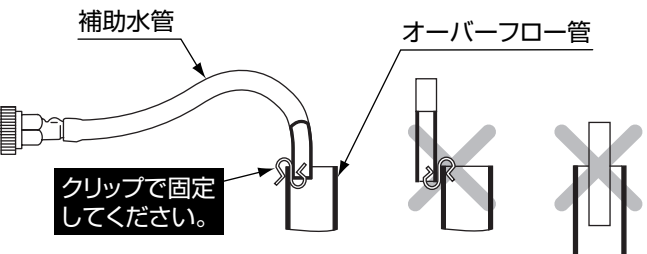
浮玉が真下に降りるように正しく取り付けてください。

(P方向から見たボールタップの向き)



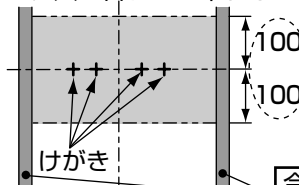
6 補助水管の接続 (補助水管付きの場合)

補助水管は、確実に差し込んでください。
ゴム管は絶対に切らないで取り付け、つぶれたり、折れたりしないようご注意ください。



7 タンクの取り付け

①タンク穴に合わせて木ねじの位置をけがいてください。

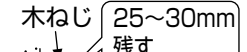


※最低限、この範囲の陶器固定部の周辺下地は12mm以上のJAS規格合板を使用してください。

合板の両端を柱、間柱に固定してください。

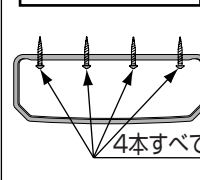
※上記は最低工法です。推奨は壁一面合板です。

②木ねじをねじ込み、25~30mm残してください。

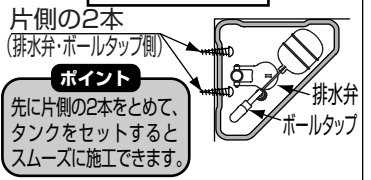


※樹脂プラグを使用する場合でも25~30mm残してください。

平付タンクの場合



隅付タンクの場合



ポイント

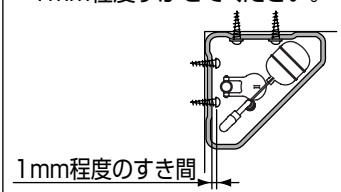
先に片側の2本をとめて、タンクをセットするとスムーズに施工できます。

③タンクを引っ掛けて特殊座金をセットし、木ねじをねじ込み、木ねじの頭が当たった時点で締め付けを止めてください。



隅付タンクの場合

※建物のひずみによるタンクの破損防止のため片面の2本を1mm程度すかせてください。



注意

木ねじを強く締め付け過ぎるとタンクが割れることがあります。

注意

- 取り付け強度を保つため、下地に12mm以上のJAS規格合板相当を使用する
 - 合板は両端を柱、間柱などの建築の躯体にしっかり固定する
- 陶器が落下し、けがをしたり、家財を破損させたり、水漏れの原因になります。

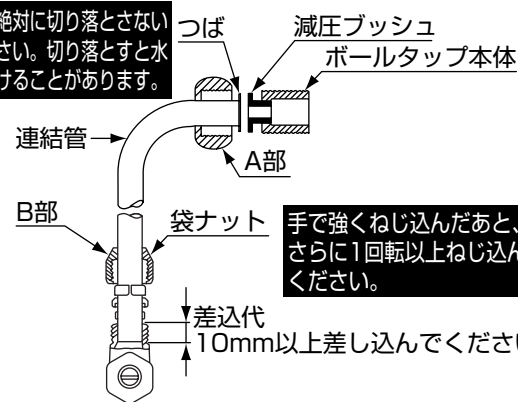


必ず実行

8-1 ボールタップと止水栓の接続

A部を先に固定したあと、B部を固定してください。

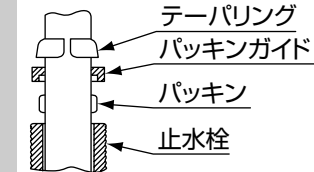
つばは絶対に切り落とさないでください。切り落とすと水圧で抜けることがあります。



手で強くねじ込んだあと、さらに1回転以上ねじ込んでください。

注意

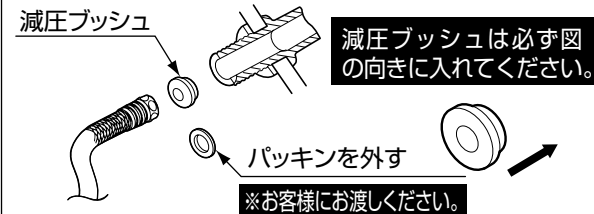
※テーパリング・パッキンガイド・パッキンの順番・向きを間違えないでください。



減圧ブッシュの取り扱い (流動・水抜き方式の場合)

水圧が低く(0.1 MPa以下)タンク貯水に時間がかかりすぎるときは減圧ブッシュを外してセットしてください。その場合、接続部には商品に付属のパッキンを使用してください。減圧ブッシュ使用の場合は、このパッキンは使用しませんのでお客様にお渡しください。

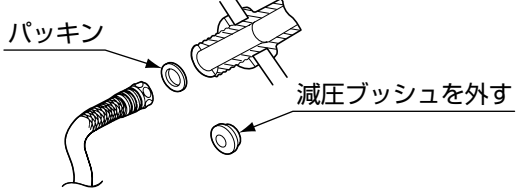
[減圧ブッシュをセットする場合]



※お客様にお渡しください。

8-2 ボールタップと止水栓の接続(つづき)

【減圧ブッシュをセットしない場合】

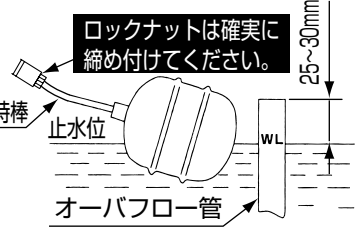


9 水位の調節

タンクの水位が図の寸法になるように、浮き玉指示部の中央部を曲げて調節してください。オーバーフロー管にWL(標準水位)の表示があるときにはWLに合わせてください。

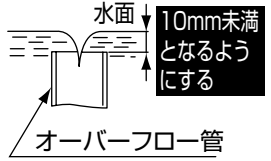
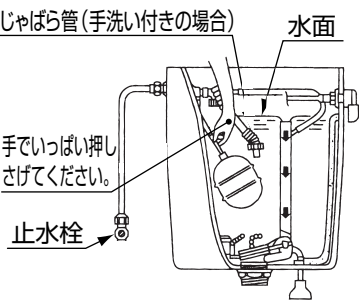
洗浄不良防止のため、止水水位は確実に合わせてください。

ロックナットは確実に締め付けてください。



10 止水栓の調節

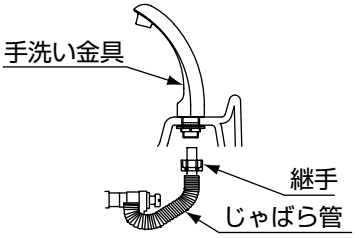
浮玉を押し下げて、止水栓を徐々に開いてください。この状態で水面がオーバーフロー管より10mm以上上昇しない程度に止水栓の開きを調節してください。この調節をしておけば、万一ボールタップが故障しても、タンクの水が外にあふれることはありませんし、給水音も低くなります。



止水栓のない場合は、他の水栓の吐水量に支障のない程度に元バルブを絞ってください。

11 手洗い金具の接続(手洗い付きの場合)

じゃばら管の継手を手洗い金具にねじ込みます。



12 手洗い金具の吐水量調節(流動・水抜きの場合)

調節金具をドライバーなどで回し、手洗い金具からの吐水量が適当な水勢になるように調節してください。

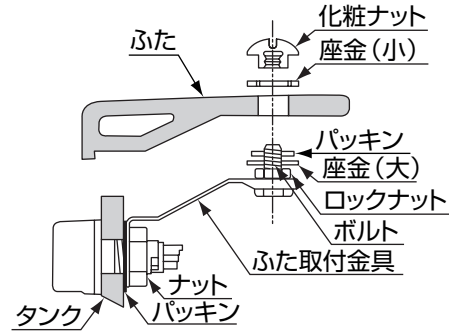


13 取り付け完了後の確認

2~3度操作して、ボールタップの浮玉が干渉しないことや水漏れなどの異常がないことを確認してください。なお、冬期間の凍結予防方法についてはお客様にご説明ください。

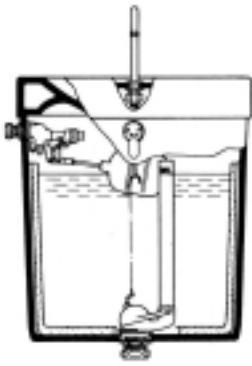
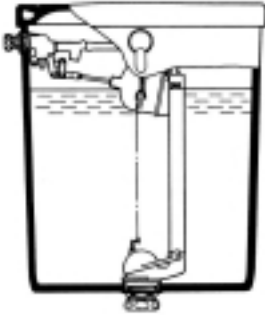
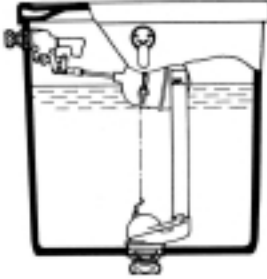
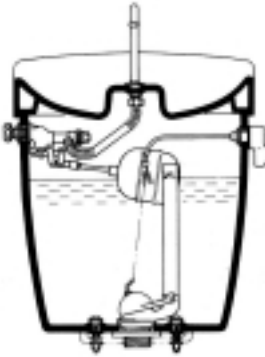

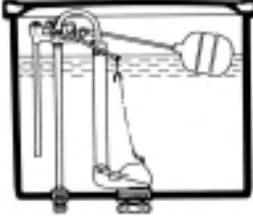


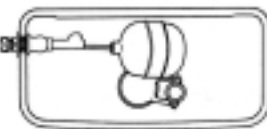
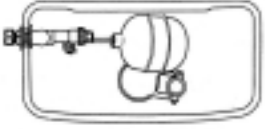

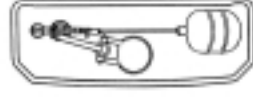
14 タンクふたの取り付け

※水位などの調節後に行ってください。
 ①ふた取付金具にボルトをロックナットで固定してください。このときふたの穴にボルトが入るように位置合わせをしてください。
 ②座金、パッキンをロックナットの上のせてからタンクのふたをボルトに通し、化粧ナットで締め付けてください。



ボールタップと排水弁の取り付け一覧

タンクの品番	防露付き S570BF・S570BKS
	防露なし S570S・S570FS
取付完了図	図は防露付きを示す
ボールタップと排水弁の取り付け	左給水
	右給水

タンクの品番		防露付き S670B・S670BF	防露付き S536B	防露付き S513BKS	手洗付き S517B・S517BR	防露付き S520B	S31
取付完了図		図は防露付きを示す 			手洗なし S516S・S516B 図は手洗付きを示す 	防露なし S151・S523 図は防露付きを示す 	
	ボールタップと排水弁の取り付け	左給水 					
	右給水 